

教育長室からのお知らせ No. 78(令和4年1月)



教育長 田中 康寛

明けましておめでとうございます。新たな年が始まりました。目標や決意を新たにし、今年も皆さんとともに市川の教育を着実に前へ進めていきたいと思っております。

新型コロナウイルスのオミクロン株やインフルエンザの流行が懸念される中、受験期を迎える児童生徒、また保護者の皆様にとっては、健康管理が重要な時期となります。子どもたちがこぞという時に十分な力を発揮できるよう、園・学校においては、教職員一丸となり、子どもたちの安全と健康管理に努めてまいります。十分な栄養と休息がとれますよう、各ご家庭のご協力をお願いしたいと思います。

先月、市川市教育委員会では、市川市幼児教育基本方針を策定いたしました。幼児期の教育は人格形成の基礎が培われる大変重要な時期です。幼児教育が土台となって、小学校、中学校の学びが積み上がっていきます。幼児教育の推進は、第3期市川市教育振興基本計画の施策の一つに掲げて取り組んでいます。小学校教育との円滑な接続や、特別な配慮を必要とする子どもへの支援、幼児教育を行う施設の情報共有や連携などの課題が見られます。そこで、これらの課題を踏まえ、新しい時代における幼児教育の一層の質の向上を図り、本市全体の幼児教育を推進するため、この度の方針で基本的な方策を示したところです。その中でも、特に大切にしていきたいと考えることを4点、お伝えします。1点目は、体験活動についてです。社会状況の変化により、直接的で具体的な体験の不足が懸念されます。自然や人との関わり、遊びなど、豊かな体験を通じて、好奇心や探求心、豊かな感性など、心も体も健やかに成長していけるよう、その礎をしっかりと築いていくことが大切であると考えます。2点目は、交流活動についてです。障がいの有無に関わらず、すべての子どもたちが関わり合い、その過程においてさまざまなことを学び、共に成長していけるようにしていくことが大切だと考えます。3点目は、幼稚園・保育所・こども園・小学校の連携です。アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの作成にあたっては、幼稚園等の幼児教育・保育を行う施設と小学校が、子どもに関わるいろいろな情報をしっかりと共有し、実態に即した質の高いカリキュラムが求められます。4点目は、子どもたちに寄り添うということです。子どもたちのさまざまなニーズに応えられるよう、教職員の専門性を高め、子ども一人一人への理解を深めていくことが必要です。そのために、幼保小の教職員が合同で研修会を行う場面を増やしていきたいと思っています。このようなことを大切にしながら、幼児教育の一層の質の向上に努めてまいります。

変化を前向きに捉え、今年も皆さんとともに、「人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育」の具現化を図ってまいりたいと思っております。